

本部委員会の審議内容

公益社団法人 鉄道貨物協会

第2回 利用促進委員会 (H29.5.17)

平成29年度第2回利用促進委員会を開催し、平成29年度委員会テーマの調査方法となるアンケート調査票の内容について審議を行った。

1. 年間テーマ『幹線輸送における共同化等効率化の実態調査と鉄道コンテナ輸送の利用促進に向けた課題・施策の検討』

上記年間テーマについてアンケート調査を実施するにあたり、幹線輸送における物流共同化の定義が、個々により相違することが懸念されることから、物流共同化のイメージを3つのカテゴリーに分類して図に示した。

また、カテゴリー別に物流共同化を実施している経緯や実態等をより具体的に回答できるようにアンケート内容を作成した。

A. 前文要旨

昨今、燃料価格の上昇やトラックドライバー不足などを背景に、輸送をはじめとする物流コストが上昇しつつありますが、将来的にはトラックドライバーや車両の確保がさらに深刻化すると懸念が強まっています。

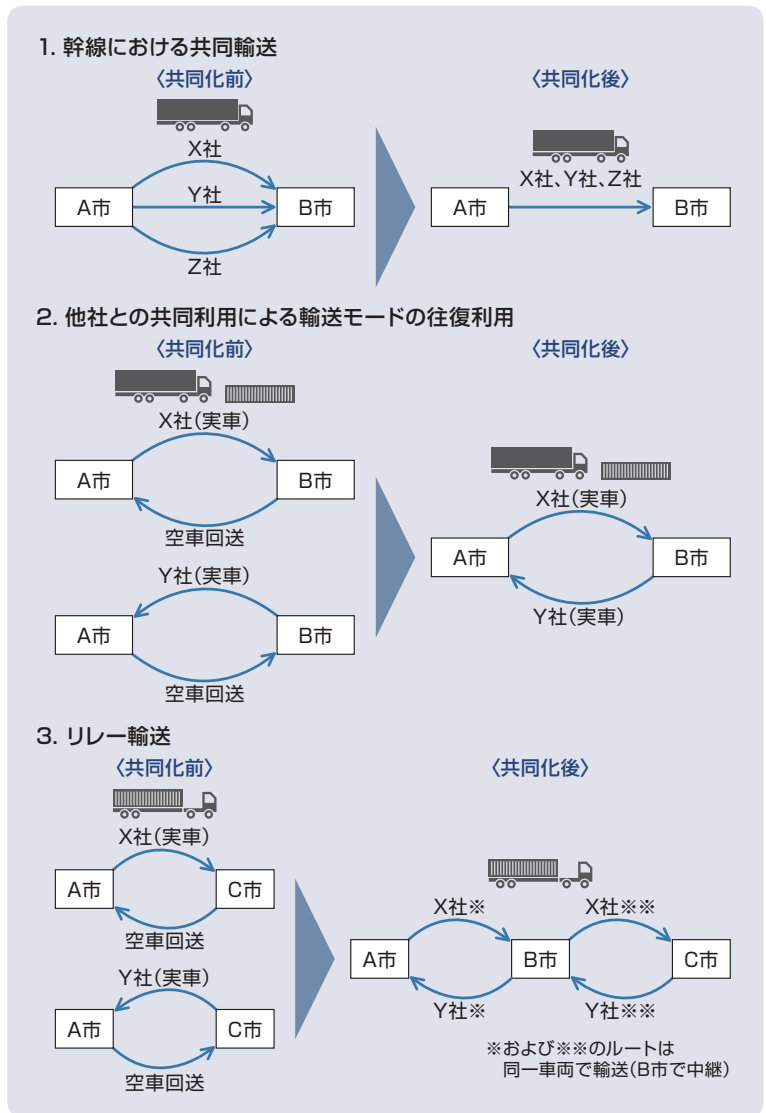
そうしたなかで、鉄道貨物協会ではとくに幹線輸送における物流共同化や効率化の実態について把握するため、本アンケートを実施いたします。なおここでの幹線輸送における「物流共同化・効率化」とは、「幹線における共同輸送」「他社との共同利用による輸送モード(トラック・鉄道コンテナ)の往復利用」「リレー輸送」「幹線輸送用の物流施設の共同利用」などを指し、同一エリア内の共同配送などは除外します。(図1参照)

B. 調査項目

- (1) 幹線輸送における物流共同化実施の有無
- (2) 物流共同化を現在実施している、過去に実施していた、実施を検討している、の各パターン別の内容をカテゴリー別に設問
 - ① 幹線における共同輸送の輸送区間、輸送モード、品目、共同化している相手先の業種、頻度、共同化を開始した時期、共同化を実施した経緯等、共同化の実態等
 - ② 他社との共同利用による輸送モード(トラック、鉄道31ftコンテナなど)の往復利用における輸送区間、輸送モード、品目、共同化している相手先の業種、相手先の輸送区間、頻度、共同化を開始した時期、共同化を実施した経緯等、共同化の実態等
 - ③ リレー輸送における輸送区間、品目、中継地、共同化している相手先の業種、相手先の輸送区間、頻度、共同化を開始した時期、

- 共同化を実施した経緯等、共同化の実態等
- ④ その他(内容、実施の経緯、実態)
- (3) 物流共同化の実施に伴うメリット
- (4) 物流共同化を今後実施する上での課題
- (5) 鉄道コンテナ輸送を利用した物流共同化を実施する上での課題
- (6) 鉄道コンテナ輸送に関する全般的な要望

図1 物流共同化のイメージについて



2. サブテーマ『食品輸送における定温(温度管理を必要とする)輸送の実態・課題および今後の意向等に関する調査研究』

A. 調査項目

- (1) 500km以上の長距離区間において、温度管理を必要とする輸送を利用している場合の輸送区間、輸送モード、品目、管理温度帯、月間の発送量
- (2) 鉄道コンテナによる定温輸送利用の意向、および理由
- (3) 鉄道コンテナによる定温輸送を現在利用している、または今後利用したい意向がある場合の品目、期間、頻度(1か月当たりの平均的な発送回数)
- (4) 鉄道コンテナによる定温輸送を現在利用している、または今後利用したい意向がある場合の輸送区間(工

- リア名、駅名)、品目、管理温度帯、利用量の多い期間における1回当たりおよび1か月当たりの輸送重量(トン数)・輸送容量(立方数)
- (5) 鉄道コンテナによる定温輸送を今後利用する、または利用を増加するための条件、ニーズ
- (6) 鉄道コンテナによる定温輸送を現在利用していない理由
- (7) 鉄道コンテナ輸送で現在利用されている定温コンテナの概要と、今後利用するにはどのような性能・大きさの定温コンテナが必要とされるか
- (8) 鉄道コンテナ輸送に関する要望について